

CASBEE®-建築(新築)

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2024年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2024_v1.0

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	TOYO TIRE株式会社 基盤技術センター	階数	地上2F
建設地	兵庫県川西市矢間3丁目103番1、10	構造	S造
用途地域	準工業地域・一種中高専	平均居住人員	6人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2026年12月 予定	評価の実施日	2025年10月1日
敷地面積	32,941㎡	作成者	東畑建築事務所
建築面積	1,677㎡	確認日	2025年11月1日
延床面積	2,693㎡	確認者	大谷健司



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ホールライフカーボン (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
BEE=1.0 S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★	標準計算 ①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+ このグラフはLR3.1「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたWLC排出量の目安で示したものです。④は参考として運用分をBEI+で表示しています。	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
Q 環境品質		
Q1 室内環境 Q1のスコア= 2.8	Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.2	Q3 室外環境 (敷地内) Q3のスコア= 2.4
LR 環境負荷低減性		
LR1 エネルギー LR1のスコア= 2.8	LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 2.9	LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.8

3 設計上の配慮事項		
総合		
1階は試験室および作業スペースを配置し、2階は機械室および屋上設備置場などを計画した。作業空間を1階にまとめることで、屋根からの熱を居住空間まで伝えにくく、作業空間としても効率的な環境になるよう計画した。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
就労環境に配慮し、執務室に空調設備を計画した。	作業の効率化を考慮し、明かなゾーニング計画を行った。1階中央付近に休憩室を配置し、休憩のしやすいに配慮した。粉塵など汚れやすい諸室の壁・床取合い部にr付巾木を採用する事で清掃性に配慮した。	外観は同じ敷地内の既存建物に合わせる事で調和を図っている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
自家消費型の太陽光発電設備の設置が計画されている。	節水に配慮した器具選定を行っている。	屋上設備置場を壁で囲う事で、設備機器の騒音による周辺環境への影響に配慮した。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ホールライフカーボン(WLC)」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の温室効果ガス排出量のこと。ここでは、建築物の寿命年数で除した年間温室効果ガス排出量で表示。

■評価対象のWLC排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される